

Corva Gialla コルヴァジャツラ



まるで箱庭のような菜園とブドウ畑より造られる、最高の飲み心地を持ったワイン

ラツィオ州ヴィテルボ北部、ウンブリアのオルヴィエートまで僅か2km。

州境にある町ルビリアーノ。ローマ出身のベアトリーチェ アルヴァイラーは 1997 年、ルビリアーノの郊外に約 2ha の土地を手に入れた。

以前から思い描いてきた、自然に囲まれた暮らしのためである。息子の独立をきっかけに 2008 年、ローマからルビリアーノへと移り住んだ。ローマから車で 1 時間半、オルヴィエートの町まで 30 分足らずでありながら、周囲は手付かずの森に囲まれている理想的な環境。そこで彼女は菜園で野菜を育て、様々な果樹を植える。他にもニワトリ、牛、馬、羊、ロバなどの飼育を行い、野菜や果実はもちろん卵やミルクまで、自分達の食べるものは自ら作り育てている。当然ながら彼女の菜園では全て、薬品や化学肥料をつかわず、自然環境を尊重した栽培を行っている。



そして家の脇にある 1ha の土地、古くはブドウ畑として使われていたこともあり、将来的にはブドウ樹を植え、自家消費用のワインを造りたいと考えていた。しかしブドウ樹の栽培、さらには言えばワインの醸造については全くの素人である彼女。とある出会いがきっかけとなり、近くの町グラードリの造り手レ コステ、ジャンマルコ アントヌーツィのサポートによってブドウ栽培、ワイン醸造を始めることとなります。ジャンマルコの考える自然回帰の栽培、純粋なブドウの表現のための醸造、そして圧倒的な飲み心地の良さを持ったワインに心酔したベアトリーチェ。元来、人工的な手法やコントロールよりも、ナチュラルなものを求めていた彼女。すべての工程において、酵母添加や温度管理、その他一切の介入を排し、SO2 も完全に無添加にて醸造からボトル詰めまで行うことを決めます。まさにレ コステと変わらない価値観に至ります。



畑は合計 1ha、サンジョヴェーゼを中心にカナイオーロ、トレッピアーノ、プロカーニコ、ヴェルメンティーノ、ペティーノ、ロマネスコ、どのブドウも Le Coste の畑より取った苗木をベースに 2010 年に植樹。粘土質がやや強いものの、グラードリと近い火山性土壌特有の痩せた要素と、オルヴィエート特有の土地の強さ。長らく放棄されていた事、そして周囲は手付かずの自然環境が残る事も、生物の多様性、自然のバランスが保たれている土地。畑ではビオディナミ式の調剤を用いるほか、年最低限に必要な銅と硫黄物を使用する以外、化学的な薬品や肥料はもちろん、堆肥さえも使わない栽培方法。



醸造においては現在、ジャンマルコのサポートの元取り組んでいます。その方法はもちろん、レ コステで行っているアプローチと何ら変わることはない。数種類の白ブドウで造られるピアンコ、サンジョヴェーゼをベースに造られるロツソ、そしてチリエジョーロは別に単独で醸造されている。ピアンコは、唯一収穫時期の早いヴェルメンティーノを先に収穫し果皮と共に醗酵。そこに圧搾した他のブドウを加え、古バリックにて醗酵、熟成。非常に繊細、そして抜群の口当たりはもちろん、そこに土地由来の芯の強さを感じる純粋でありながら個性を持った白。サンジョヴェーゼは畑のポジションによって成熟するブドウのレベルが異なるため、熟成の段階でいくつかのキューベに分けてボトル詰めされる。特に寒さを強く感じる 2014 については、ブドウの味わいが大きく変わるため、全く別のワイン Rossetto (ロッセット、小さいロツソの意味合い)としてリリース。そして、非常に個性的ともいえるチリエジョーロ 100% でボトル詰めされる Ceresa チエレザ。果実的なタンニンと繊細さ、軽やかさ、サンジョヴェーゼとは全く違う雰囲気を持ったワイン。樹齢も若く、2017 年が初めてのリリースとなるカンティーナ。



ブドウのポテンシャル、造り手としての経験値は、まだまだ及ばないものの、ジャンマルコのサポートの元、表現される地域的な個性、ボルセーナ周辺の土地の軽やかさとは違う、オルヴィエート特有の重心の低さ。何とも興味深い造り手がまた増えました。



ワイン名	ヴィンテージ	種類	容量	メモ
Bianco ビアンコ	22	白	750ml	トレッピアーノ トスカーノ、プロカーニコ、ヴェルメンティーノ、他、樹齢8年。成熟の早いヴェルメンティーノのみを先に収穫し果皮と共に3日間、その他のブドウはすぐに圧搾し、醗酵が進んだモストに加えて醗酵、テラコッタ製のタンクにて醗酵・熟成。果実と酸のバランス、飲み心地を意識した白。2022年は天候だけでなく収穫量にも恵まれたヴィンテージ。フレッシュな果実酸の心地よさと、軽快な飲み心地。そして火山性&豊かな土壌の厚みある味わい。ある程度醗酵を段階的に行ったことで、これまでには感じなかった「安心感」を増した2022。これからの進化を感じられるヴィンテージです。
Bianco “Amber” ビアンコ “アンバー”	21	白	750ml	グレケット、樹齢10~20年。 近所の農業学校の生徒と共に栽培を行ったグレケットをベースに醸造。収穫後、果皮と共に木樽にて14日間の醗酵。圧搾後500Lのトノーにて12か月、ボトル詰め後、約12カ月の熟成。十分な手ごたえを感じ、2023年に新しい畑にも植樹されたグレケット。天候に恵まれたヴィンテージだけに、これまでよりもより果実味が強く出て、果皮由来のタンニンと均整がとれた味わい。グレケットの果皮の厚さ、タンニンの強さ、時間と共に開いてゆく味わいの深さ、奥行き。非常に興味深いワイン。
Bianco “Lilli” ビアンコ “リッリ”	23	白	750ml	ヴェルメンティーノ60%、モスカート40%、樹齢10~20年。近所の農業学校で栽培したモスカートと自分の畑のヴェルメンティーノから醸造した白。収穫後、モスカートのみ果皮と共に7日間、圧搾しトータル2週間の醗酵。ヴェルメンティーノとアッサンプラージュを行い6か月、ボトル詰め後さらに6カ月の熟成。アロマティックさだけではなく、モスカートのもつ果皮のポテンシャル。同じくアロマティックでいて繊細なヴェルメンティーノとの相性を感じ合わせることで、果皮由来の味わい深さとちょうどよいアロマと飲み心地、魅力的な白。
Rosato ロザート	22	ロゼ	750ml	モンテプルチャーノ60%、サンジョヴェーゼ40%、樹齢5~8年。サンジョヴェーゼのみ短時間、果皮とともに醗酵をスタート。圧搾後、直接プレスしたモンテプルチャーノのモストを加えて醗酵を終え、そのまま6カ月の熟成。味わいの軽やかさと酸、果実のバランス、飲んでいて疲れを感じない心地良いロザート。
Rossetto ロッセツト	22	赤	750ml	サンジョヴェーゼ、樹齢8年。収穫したブドウを果皮と共に2週間、野生酵母による醗酵。木樽にて12カ月の熟成。意味合いとしては「小さなロッソ」という意味合い。猛暑で乾燥した2022、表土の厚いロッセツトの区画では水不足に陥ることもなく、強い果実を感じる魅力的なヴィンテージとなりました。それでいて心地よい酸とフレッシュな果実味、アンバランスな印象をほとんど感じず、スムーズで軽やかさを感じる味わい。
Rosso ロッソ	18	赤	750ml	サンジョヴェーゼ、樹齢5年。丘の上、より表土が少ない区画より収穫した高品質のサンジョヴェーゼ。果皮と共に3週間、野生酵母による醗酵を促す。圧搾後、木樽にて18カ月の熟成。果実は非常に落ち着いていてタンニンもなめらか、レコステのワインにとっても近い印象を持ちつつも、土地由来の厚み、重厚さを感じる味わい。飲み心地とのバランスがとてよくなりました！
Cereza チェレーザ	19	赤	750ml	チリエジョーロ、樹齢8年。収穫したブドウは除梗せず、空気に触れない状態にて45日間もの長期間マセレーションと醗酵を行い、圧搾後木樽にて12カ月の熟成。サンジョヴェーゼの補助品種として知られるブドウでありながら、その個性的な果実味、柔らかいタンニンを表現したチリエジョーロ。豊富でありながらも果実的なタンニン、そして線の柔らかさと繊細さ、軽やかさ、ブドウの個性を明確に表現。2019年は雨が多く、果実はやや控えめで酸の際立つヴィンテージでした。熟成期間を設けたことで円熟した酸のうまみときめ細かいタンニン、そしてフレッシュさを失わないバランスの良い味わい。
Poggio Pastene ポッジョ パステネ	16	赤	750ml	サンジョヴェーゼ、樹齢4年。リゼルヴァに当たる赤。ロッソと同じ丘の上の畑より収穫。木樽にて24カ月の熟成。天候にも恵まれた良年、そして何より収穫より8年以上経過し、非常に磨き上げられた魅力あるサンジョヴェーゼ。完熟した果実は熟成により妖艶で複雑な香りを帯び、味わいにも複雑さ、幅広さをもち、そして何より、不安定さのかけらも感じない、落ち着きと質感。長い年月を待ったからこそその素晴らしい味わい。
Rosso Stregato ロッソ ストレガート	23	淡赤	750ml	チリエジョーロ100%、長雨によって病果が増え、果皮の成熟に苦労した2023年。例年とはアプローチを変え、収穫したブドウは除梗せず全房で約3週間、カーボニックマセレーションを行い圧搾。圧搾後モストだけの状態で醗酵を終える。その後セメントタンクにて12カ月の熟成、ボトル詰め後12か月。色調も淡くチリエジョーロの持つ果実的な特徴を、前面に表現した

フレッシュ&フルーティな心地よい飲み心地。ワインの名前は「Rosso Stregato ロッソストレ
ガート=魔法にかかった赤」、という意味合い。
